

## 札幌文化芸術円卓会議平成21年度・22年度 活動報告

札幌文化芸術円卓会議委員

21・22年度にわたり検討を行い、「アートの産業化」について以下のような取組を提案いたします。

### 戦略性・方向性

- 市民主体の活動運営センターの設置
- 市長直轄の横断的な戦略的文化芸術推進組織の設置

### 協働・交流

- 意見交換し合うセミナー形式の交流プロジェクト
- 芸術家協同組合的ネットワーク化
- 芸術イベントの複合化・融合化、オンシーズンのイベント集中化
- 地域コミュニティに支えられた小規模分散型イベントの模索
- 学校施設や公民館との連携(場の提供の代わりにアウトリーチ活動)
- 観光も絡めた道内規模のツーリング型国際芸術展の開催

### 情報発信

- 文化芸術情報のオンラインと新たな冊子による発信
- 市立図書館におけるアート情報提供の強化
- メリハリのある広報(ときには様々な媒体を駆使した大規模なキャンペーンを)
- 観光文化情報ステーションの移設・機能拡大、報道機関等と連携した定期的な情報発信の検証
- イベント情報の集積・可視化(観光資源や教育資源を創造)
- 作品の買上げ、継続的な調査や北海道の芸術家等のアーカイブの整備・著作権の管理
- 市内の芸術活動への興味を引出す仕掛けづくり(プロデュース能力とマネジメント力)

### 教育

- 小学生、中学生、高校生を対象としたアート教育プロジェクト
- 芸術家や留学生を教育機関への外部講師として積極的に導入
- 市立大学デザイン学部・研究科への留学生の授業料無償化
- ファンドレイズの手法など芸術家に対する教育を実施
- 大学院レベルのアートマネジメント専科など育成機関の創設
- 芸術学校の創設

### 人材集積

- 環境整備し、道内外、国外からアーティストを呼び込む
- 各ジャンルの産業化に向け、それぞれのプロが札幌に根付くための取り組み

### 行政の取組

- 官民共同による基金づくり
- 公募による助成システムの拡大
- 芸術家のアウトリーチ活動促進に向けた市民側の要望受付窓口の設置
- 出資者が評価できるよう芸術家や団体の情報公開を促進、仕組みづくり・出資に足る活動の公的な認定
- アートに関するブランドコンセプトの開発、アーティストを支えるプロ組織の創設
- 文化事業に対するオンブズマンの設置
- パブリックアートや美術館のあり方を検討・調査、公共の福祉の範囲内で芸術作品の需要人口の増に
- キュレーターのような職員の育成、文化産業推進本部のような全庁組織
- 補助金、低利貸付、大規模な試験研究機関などの総合的な振興
- 「我が街の劇団」を持つための先行投資を行う

### アーティストの取組

- 自身の作品の社会的価値の明示
- 地域の芸術文化活動に一定の役割を担う「アクター組織」の創設